

## 潰瘍性大腸炎 (UC) の診断基準

ポケットブック版にてご覧いただけます。

【お問い合わせフォーム】

<https://www.mbl.co.jp/contact/dia.html>

# クローン病 (CD)

クローン病は原因不明で、主として若年者にみられ、潰瘍や線維化を伴う肉芽腫性炎症性病変からなり、消化管のどの部位にも起こりえます。消化管以外（特に皮膚）にも病変が起こることがあります。

臨床像は病変の部位や範囲によって多彩で、発熱、栄養障害、貧血などの全身症状や関節炎、虹彩炎、肝障害などの全身性合併症が起こりえます。

## 臨床的特徴

腹痛、下痢、体重減少、発熱、肛門病変、消化管外合併症（貧血、低蛋白血症、強直性脊椎炎、口内アフタ、結節性紅斑、壊疽性膿皮症、虹彩炎、成長障害など）

## 関連自己抗体

ASCA (Anti-saccharomyces cerevisiae antibodies)

## クローン病 (CD) の診断基準

ポケットブック版にてご覧いただけます。

【お問い合わせフォーム】

<https://www.mbl.co.jp/contact/dia.html>

## 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)

特発性血小板減少性紫斑病は血小板膜蛋白に対する自己抗体が発現し、血小板に結合する結果、主として脾臓における網内系細胞での血小板の破壊が亢進し、血小板減少をきたす自己免疫性疾患です。最近、欧米において本症は、primary immune thrombocytopenia と呼ばれることが多いようです。種々の出血症状を呈します。通常、赤血球、白血球系に異常を認めず、骨髄での巨核球産生能の低下もみられません。ITP の診断は今でも除外診断が主体であり、血小板減少をもたらす基礎疾患や、薬剤の関与を除外する必要があります。血小板減少とは、血小板数 10 万 / $\mu\text{L}$  未満をさします。最近では、ITP においては血小板破壊亢進のみならず、血小板産生も抑制されていることが明らかにされています。血小板自己抗体が骨髄巨核球にも結合し、血小板の産生障害を引き起こしていると考えられています。

## 関連自己抗体

自己抗体	疾患、病態との関連	MBL 関連製品	診断基準
血小板結合性免疫グロブリン G (PAIgG)			◎
抗血小板自己抗体	血小板破壊亢進、血小板産生障害。		